

2015年(平成27年)8月4日(火曜日)

被災地での  
思い「掲示」ポスターを  
バス車内に

7月7～11日に東日本大震災の被災地、岩手県釜石市を訪問し、ボランティア活動をした室蘭・海星学院高校(香川謙二校長、236人)の生徒6人が30日、室蘭市東町の道南バス室蘭東営業所を訪問し、それぞれが現地で感じた思いを書いたポスターをバスの車内に掲示した。

毎年実施しており、今年で4回目。生徒らは釜石市の仮設住宅と復興公営住宅の集会所3カ所を訪問し、入居者の話を聞く傾聴ボラ

ンティア活動に従事した。

ポスターは1人1種類作製。現地で撮影した写真を背景にキャッチコピーを記載した。バス60台分、計360枚を届けた。

この日は、バスの車内で生徒が「現地の子どもたちにも未来があり、応援したい」と述べ、菊地伸行所長へポスターを手渡した。その後、「うれしいことも悲しいことも分かち合っていこう」などと書かれたポスターを車内に張った。

大谷優生さん(2年)は「被災地では元気な人もいるが、最近まで外に出れなかった人もいる。たとえ町並みは元に戻っても、被災した人の心の復興には個人差があると感じた」と話していた。

(池田勇人)



作製したポスターをバスの車内に張る  
海星学院高校の生徒